

大雲取越地蔵堂

地蔵堂には旅人を見守ると言われる地蔵菩薩の像が 32 体安置されています。

魚商人の寄進

もとの地蔵堂とそこに納められた像は、1707 年に六兵衛という大阪・堺の魚商人によって寄進されました。ここに安置されている像は当時のものですが、山中では無人の木造建築物は傷むのが早い
ため、お堂は定期的に建て替えられています。最後に建て替えが行われたのは 2015 年です。

もともと、地蔵堂には 33 体の像がありました。失われた 1 体の所在は分かっていません。
地元で伝えられる一説によると、このお地蔵さまは熊野古道を歩き回り、困っている参詣者を密かに
助けています。

修験道の地

地蔵堂には、山伏と呼ばれる修験道の行者がたびたび訪れます。修験道は、仏教・神道・道教の
要素を組み合わせた伝統的な山岳信仰です。中世における熊野は修験道の一大拠点で、ここ数
十年、青岸渡寺の副住職はこの地の修験道の復興に尽力してきました。山伏は春と夏に熊野の山
に入って修行をし、様々な像や神社を通る際に碑伝と呼ばれる小さな木の札を置いていきます。この
時期、地蔵堂には多くの碑伝が集まります。

地蔵茶屋休憩所

地蔵堂の隣には地蔵茶屋休憩所があります。この休憩所は大雲取越の中間地点にあった地蔵茶
屋の跡地に建てられました。